

平成 2 8 年 度 事 業 計 画

平成 28 年事業計画基本方針

本年 3 月には、東日本大震災から 5 年の節目を迎えます。震災以降も火山活動の活発化や豪雨等による大きな被害が全国各地で発生しています。

我々は、「絆」という言葉で結束し、復興に臨んだ当時の思いを決して忘れず、日本の主要産業として、印刷産業は与えられた責務を果たしていかなければなりません。

印刷産業は、情報・生活・文化の担い手として重要な役割を果たしてきました。印刷が社会の需要を満たし、社会の要請が印刷産業の発展を促したとも言えます。しかし、社会・経済情勢は大きく変化し、印刷産業を取り巻く環境も激変しました。そのため、昨年から、従来の活動や組織、予算等を抜本的に見直し、役割や活動テーマを再構築する「グランドデザイン」の実行に入りました。

平成 28 年度は日印産連の主要活動である常設委員会・部会活動、審査認定機関事業等は下記の指針に沿って取り組むことといたします。

グランドデザイン実行の指針は次の 5 点です。

1. 印刷産業の「社会的責任」を明確にし、社会的役割を明示し、産業全体のイメージ向上を図る。
2. 印刷産業の果たすべき役割を分かりやすく表した「ミッション・ステートメント」の周知徹底を図る。

《 ミッション・ステートメント 》

「われわれ印刷業に携わるものは、印刷事業を通じて常に新しい価値創造に邁進し、豊かな情報文化、生活文化を実現することで持続可能な社会の発展に貢献する。そのために、われわれは常に「印刷」の可能性を見つめなおし、新しい事業領域の拡大、奥行きを深掘り、そして新しい技術開発に挑戦し続ける。」

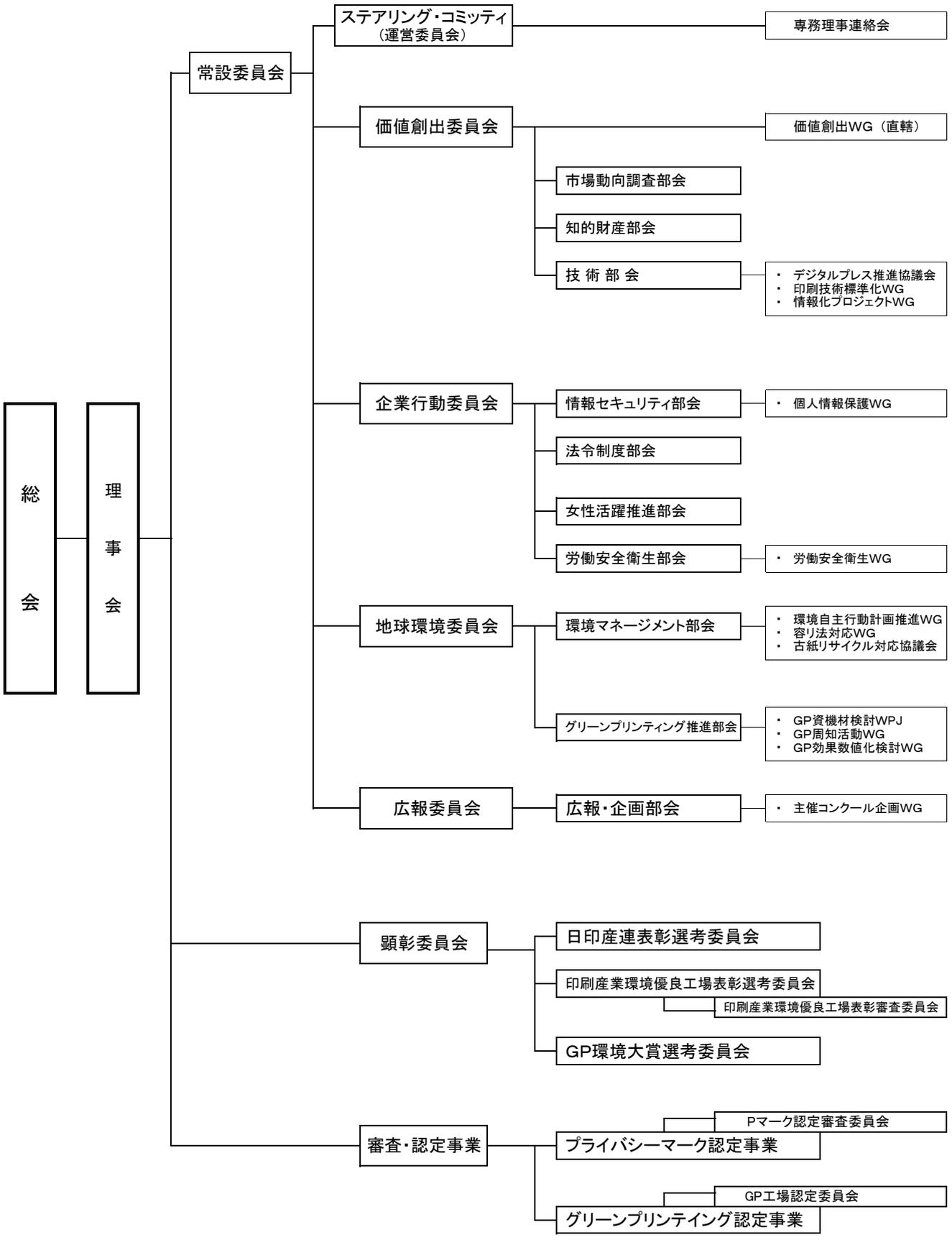
3. 遂行中の各事業を含め内容を常に見直して、現実的なテーマに沿って推進する。
4. 印刷産業の連合団体として説明責任と情報発信を行い、社会的な認知・理解を深める。
5. 賛同表明した「国連グローバル・コンパクト」の深掘りを図る。

5 つの指針に沿って一歩一歩あゆみを進め、目的である“印刷産業を未来にリードする団体”を目指して取り組んでまいります。

日印産連の「グランドデザイン」は、数年かけて進捗を図っていきませんが、本年度は「グランドデザイン深掘り年」として位置づけ、事業計画を着実に遂行していきます。

平成28年度(2016年)
一般社団法人 日本印刷産業連合会 委員会/組織図

★ 5常設委員会／10部会



I 常設委員会活動(業界基盤整備事業) / 顕彰委員会

1 ステアリング・コミッティ (運営委員会)

1. 委員会の業務分掌

《本会の基本政策立案および行政並びに各常設委員会活動の連携及び調整を図る委員会》

2. 事業の概要

「印刷産業の社会的責任の向上に資する団体活動の強化」を目的に、

- (1) 現状の委員会体制を基軸にした活動全般に関する全体統括。
- (2) グランドデザインミッション・ステートメントに即した「社会責任の遂行」と「整合性の確認」。
- (3) 各委員会や認定事業の重要議案に関する判断・決定・調整あるいは新たな委員会の設置判断などの機能を有して、各委員会との連携により、各委員会ならびに認定事業の活動を支援していく。
- (4) 平成 28 年度事業
 - ・ グランドデザインに基づく諸規程の改訂

3. 所属部会

専務理事連絡会	<input type="checkbox"/> 委員会および 10 団体派遣委員の編成を検討する
---------	---

2 価値創出委員会

1. 委員会の業務分掌

《印刷産業の価値創造に関する情報収集・情報提供・発信・共有・教育・研修等の促進》

2. 委員会事業の概要

- (1) 価値創出委員会情報・ネットワーク構築に向けた検討
印刷産業の価値創出に向け、印刷業界の情報共有・交流等を目的とした情報・ネットワークの構築が必要不可欠である。具体的な情報活用のための双方向の連携ネットワークシステム構築案を検討し、各団体相互協力体制のもとで、構築運営を進める。
- (2) 調査研究に向けた検討
各参加団体との連携のもとに業界の課題解決に向けた調査研究等、経済産業省他との連携事業化を提案し、推進する。

3. 所属部会/WG

① 市場動向調査部会	<input type="checkbox"/> 海外含めた市場動向や新技術動向など幅広い情報収集活動と業界内外に向けたタイムリーな情報提供や情報発信および啓発活動を推進する。
------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> * 産官事業連携、企画調査提案活動として、特にインバウンド事業に向けた事業企画提案を強化する。 * 新事業領域に向けたビジネスモデルの検証と新事業事例調査研究を行う。 * グローバル事業戦略研究・海外戦略事例研究活動を推進する。 * 「印刷産業関連データ」(隔月刊)、「マーケティング・データ・ブック」(年報)の発行、動態調査(年4回)及びインターネット等による情報の提供やセミナーによる啓蒙活動を推進する。
② 知的財産部会	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 知的財産権に関する調査研究と啓発活動を行う。 * 業界が抱える共通課題解決に向けた調査・研究活動を推進する。 * 政府・行政省庁の知財関連動向への積極的に対応(TPP等法改正)し、意見表明や提案活動を推進する。 * 国内主要都市を中心に研修セミナーを開催する。
③ 技術部会 ■デジタルプレス推進協議会 ■印刷技術標準化WG ・印刷用語集改訂委員会 ・技能五輪審査委員会 ・印刷不良判定技能プロジェクト ・標準色(Japan Color)プロジェクト ■情報化プロジェクトWG	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 印刷技術の維持・向上に貢献する情報の収集・提供と同関連事業を中心に活動する。 * アンケート調査を実施してから約10年が経過。座長交代を機に、今後の運営について見直す。 ・用語解説・カテゴリーの見直しと、リンク先の整理・DB化などを進め、印刷産業のポータルサイトを目指す。 ・2017年アブダビ大会に向けた国内選考会を実施する。 ・技能五輪国内選考用に検討していた印刷トラブル発見能力問題を充実し展開するため、プロジェクトを立ち上げる。 ・政府の「蛍光灯からLEDへ」の考え方に対し、標準光源・標準色(Japan Color)への影響を、関連団体と連携して情報の収集に努める。 * 印刷産業界の新たな価値創出に資する情報・ネットワークを構築する。

3 企業行動委員会

1. 委員会の業務分掌

《印刷産業が社会の要請・期待に則し、的確に行動できる組織となるために必要な情報収集・情報共有、啓発活動、教育・研修など》

2. 委員会事業の概要

日印産連グランドデザインでは、「印刷産業の社会的責任(SR)」を上位コンセプトとして掲

げている。情報コミュニケーション産業としての印刷産業は、社会や個人と密接に関っており、事業を持続的に発展させていく為には、企業活動に対する社会からの信頼を確固たるものにする事が最も大切である。

企業行動委員会は、信頼の基盤となる“個人情報保護と情報セキュリティ”“法令制度の理解と遵守”“女性活躍推進”“労働安全衛生”に焦点をあて、印刷産業が社会の要請・期待に対して、的確に応え、行動できるよう、必要な情報収集・情報共有を行うとともに啓発・教育活動等を通して、会員団体の「印刷産業の社会的責任」に対するさらなる意識の向上を図る。

3. 所属部会／WG

<p>①情報セキュリティ部会</p> <p>■個人情報保護 WG</p>	<p>□ 平成 27 年 9 月に成立した改正個人情報保護法の 2 年以内の完全施行への対応</p> <p>* 「改正個人情報保護法への対応」、「経済産業分野ガイドラインの改正」、「個人情報保護委員会」、「マイナンバー制度」等の動向についての情報提供のため、必要に応じてセミナーを開催。</p> <p>* 情報セキュリティ部会として、個人情報保護やサイバーセキュリティに関して印刷事業者の事業展開に資する活動を実施するため、事業者ニーズを探るアンケートを実施。</p> <p>* WG活動として「印刷事業者のための個人情報保護マネジメントシステム構築ツール」の完成と活用。</p>
<p>②法令制度部会</p>	<p>□ 税制・下請法・規制改革等への対応</p> <p>* 税制改正要望の提言は引き続き実施しつつ、各省庁と印刷企業との仲介役を務め、関連アンケート調査の発信・取りまとめを行う。</p> <p>* 平成 29 年 4 月より 8%から 10%に引き上げられる消費増税にともなう軽減税率の対応等について研究し、概要を会員団体等に周知する。</p> <p>* 関係省庁と連携し、法人税改革や社会保障制度等に係る各種法令・制度について必要に応じてセミナー等の開催を検討する。</p>
<p>③女性活躍推進部会</p>	<p>□ 開設 2 年目となる平成 28 年度の部会の取組みテーマは、『日印産連会員 10 団体が「女性活躍推進」に取り組む風土を醸成する。』とする。</p> <p>* 国の女性活躍推進に関する新たな動向や、会員 10 団体における女性活躍推進に関する取組み事例等を情報共有する。</p> <p>* 女性活躍推進部会主催の啓発セミナーの第 2 弾・第 3 弾の内容検討及び実施。</p> <p>* 女性活躍推進・ワークライフバランス・ダイバーシティ経営等をテーマに定例会議等の機会を利用して委員向け「勉強会」を実施。</p>
<p>④ 労働安全衛生部会</p>	<p>□ 「労働衛生／化学物質管理」を優先テーマとして取り組み、印刷事業所の安全衛生全般についての情報・データ等の整備を行うとともに、セミナー等を開催して啓発に努める。</p>

<p>■労働安全衛生 WG</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「VOC 警報器」活用による化学物質の取扱対策の充実を促進、併せてセミナーを開催し、広く普及を図る。 * リスクアセスメントの実施に向け印刷業界に向けた各種ツールの開発・提供等を行い、セミナー開催ほか環境の整備をすすめる。 * 2012年版「印刷産業における環境関連法規集」の改訂。
-------------------	---

4 地球環境委員会

1. 委員会の業務分掌

《印刷産業が地球環境への配慮をさらに高め、だれでもが印刷産業＝環境配慮産業と認識でき、他の模範となれる産業になるための体制作り、情報収集・情報共有、教育・研修などを実施する》

2. 委員会事業の概要

- (1) 印刷産業の社会的責任の遂行のため、自主行動計画等による業界全体の環境改善目標・方針の策定、目標達成のためのグリーン基準を中心とした具体策の構築、及びGP認定制度を中心とした個別展開を図るとともに、その実績及び効果を取りまとめ、発信することにより、印刷産業界内外及び社会に対し広くアピールすることを重点とする。

- (2) 業界全体の施策の展開と各部会の役割

地球環境委員会のもと、環境マネジメント部会は印刷業界団体の環境改善目標、方針、計画として自主行動計画等（低炭素社会実現、循環型社会形成、VOC削減、遵法等）を策定する。これを受けて、グリーンプリンティング推進部会では、具体的な実行方法であるグリーン基準の見直し、GP認定制度の改善、普及を行っていく。さらに、自主行動計画等の達成状況を環境マネジメント部会がチェック、分析を行った上で、計画の見直しを行う。以上、PDCAを行いながら、業界全体のレベルアップを図っていく。

3. 所属部会/WG

<p>①環境マネジメント部会</p> <p>■環境自主行動計画推進 WG</p> <p>■容り法対応 WG</p> <p>■古紙リサイクル対応協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古紙リサイクル対応 WG ・ISO/TC130/WG11 国内委員会・脱墨分科会 	<p>□ 各種環境自主行動計画、自主的取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> * 低炭素社会実現/循環型社会形成/VOC 排出抑制 * 容り法対応実態調査 * 環境関連法規集の改訂 * 古紙リサイクル適性ランクリスト * 古紙リサイクルの促進・周知 * 古紙リサイクルの国際標準化
<p>②グリーンプリンティング推進部会</p> <p>■GP資機材検討 WPJ</p> <p>■GP周知活動 WG</p> <p>■GP効果数値化検討 WG</p>	<p>□ グリーン基準の見直しと GP 認定制度の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> * GP 認定工場/GP 印刷製品/GP 資機材制度推進 * GP 環境大賞制度による顕彰 * GP 認定工場、GP マーク印刷製品の環境負荷低減効果算出、システム構築

5 広報委員会

1. 委員会の業務分掌

《各常設委員会の活動を受け、印刷産業から業界内外に向けて、印刷産業の役割・機能のアピール、信頼される産業像作り、また社会からの期待の正確な把握と業界内への啓発を担当する》

2. 委員会事業の概要

グランドデザインの中核となる、「社会への情報発信強化」という目的から、日印産連のポジショニングを最大限に活用した「情報のハブ機能の強化」に努め、広報委員会が情報のハブとして有効に機能し、印刷業界内部での情報共有化を進めていくとともに、社会に向けて印刷産業のアピールに努める。

具体的な活動は、「広報・企画部会」が中心となり主催コンクール、印刷の月等の企画運営、対外的・業界内向けのメディア統括や情報発信、更には海外業界動向の調査及び海外印刷連合会との連携を行う。

3. 所属部会

<p>①広報・企画部会 (主要テーマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷の月企画運営 <p>■主催コンクール企画WG</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「印刷の月」企画立案 <ul style="list-style-type: none"> ・生活者にわかりやすく身近で役に立っている「印刷」への理解促進メディアの発行やシンポジウム・展示会の開催など ・「印刷の月」協賛イベントの拡充 * 主催コンクールの活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・「造本装幀」50周年記念イベントの協賛ほか、各種コンクールの活性化を進める
<ul style="list-style-type: none"> ・業界情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> * 「情報のハブ機能強化」に繋がる施策の企画・実施 <ul style="list-style-type: none"> ・日印産連各委員会事業との連携強化 ・会員団体事務局(会員企業)とのコミュニケーション強化 ・印刷業界の社会貢献や地域貢献活動の収集と発信 ・業界内の各種コンテスト情報の収集と発信 * メディア統括の観点から有効なメディア活用策を協議し実施する * 産連の活動を中心とした印刷産業の現状をとらえた「J F P I 社会責任報告書」の発行。
<ul style="list-style-type: none"> ・海外業界動向の調査及び海外印刷連合会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> * Drupa の視察により業界動向調査 * WPCF (World Print & Communication Forum) の会合に参加するとともに、同時開催される韓国の印刷機材展 K-Print の調査 * FAPGA(Forum of Asia Pacific Graphic Arts)の会合に参加するとともに、同時開催される All-in-Print China を調査

6 顕彰委員会

1. 委員会の業務分掌

«「日印産連表彰選考委員会」「印刷産業環境優良工場表彰選考委員会」「GP 環境大賞選考委員会」を招集し、選考を委嘱する委員会 »

2. 委員会事業の概要

顕彰委員会は、「顕彰の客観性と信頼性の継続的な維持・向上」をコンセプトに、印刷産業の活性化につながる顕彰制度を目指し、「日印産連表彰」および「印刷産業環境優良工場表彰」および「GP 環境大賞」についての検討を行う。

3. 所属部会

①日印産連表彰選考委員会	<input type="checkbox"/> 審査・認定および外部審査への答申案の策定 * 関連規程の改訂を検討 〔日印産連表彰規程〕 〔各賞選考基準〕 〔表彰選考委員会規程〕
②印刷産業環境優良工場表彰選考委員会 ■印刷産業環境優良工場表彰審査委員会	<input type="checkbox"/> 審査・認定および外部審査への答申案の策定 * 関連規程の改訂を検討 〔印刷産業環境優良工場表彰規程〕 〔印刷産業環境優良工場選考委員会規程〕
③GP 環境大賞選考委員会	<input type="checkbox"/> 審査・認定および外部審査への答申案の策定 * 関連規定の策定

Ⅱ 審査・認定機関活動

I. プライバシーマーク指定審査機関事業

1. 事業概要

本年度は更新申請が多い年にあたる。しかし、課題となっている年度ごとの審査件数の山谷を無くすためには、今期の営業活動が大きなカギとなる。他の審査機関からの移管促進や、更新事業者が認証を維持するため、当センターからのきめ細かな情報発信が必要となる。

平成 28 年 1 月からのマイナンバーの利用開始、改正個人情報保護法の一部施行、経済産業分野ガイドラインの改正など、プライバシーマーク審査認定においても審査項目の追加等の準備が必要になる。マイナンバーの利用開始にともない、第三者認証としての信頼性が向上している。このような個人情報保護の変化とアベノミクスの経済的波及効果等により、新規の申請事業者が増えることが期待され、27 年度の実績を踏まえ新規申請については年間 12 件を目標とする。セミナーやホームページによる情報発信、会員団体や各都道府県の印刷工業組合との連携を強化し、現在の取得事業者が認定維持を断念、また他審査機関に移行することがないように、継続してコミュニケーションを図り、下記の目標数値を達成すべく具体的施策を実施する。

審査活動においては、現地審査での審査員の評価を上げるため、審査技術の向上と判定にブレが生じないように、継続して審査員の力量のさらなる向上を目指す。また月 22 件の現地審査をスムーズに行い、審査期間の長期化を無くすように審査業務の効率化と、審査員の増強を、今期の目標とする。

2. 平成 28 年度目標値（受理／現地審査／認定企業数／審査収入）

	受理数			現地審査数			認定数			審査収入
	新規	更新	合計	新規	更新	合計	新規	更新	合計	
28 年度計画	12	255	267	12	256	268	12	244	256	107,002 千円
27 年度実績	12	191	203	12	191	203	13	190	203	86,805 千円

〈参考：平成 28 年 3 月末現在〉 日印産連 P マーク認定事業者：会員団体別

加盟団体	全印工連	工業会	フォーム	GCJ	シール	製本	合計
会社数	322	56	37	20	8	4	447

※関連・子会社の場合は親会社、重複加盟の場合はどちらか 1 団体でカウント

3. 具体的活動

- (1) 各都道府県の印刷工業組合と連携した取得事業者の開拓及び各種セミナーの開催
 - ・ 地区工組を積極的に訪問し情報を収集するとともに、「マイナンバー取扱ハンドブック」の解説や「PMS 内部監査員セミナー」の開催促進のための情報発信を行う。
 - ・ 地域ブロック県単位で「P マーク取得事業者の集い」「PMS 内部監査員セミナー」の開催を促進
- (2) ホームページの活用
 - ・ HP によるタイムリーな関連情報の提供と内容の充実を図る。また、P マーク付与事業者向けサイト「寄木細工の箱」の掲載内容を充実させ、事業者に必要なとされる情報を発信することにより事業者の信頼の獲得を目指す。
- (3) 審査センターの管理機能の強化
 - ・ 「審査工程管理システム」、「認定付与事業者管理システム」を活用し、累積審査件数の増加、認定業務の正確性・効率化の推進、審査期間の短縮及び申請事業者へのサービス向上を図る。
- (4) 審査員補(2 名程度)の OJT 研修の受け入れを行う。

II. グリーンプリンティング認定審査事業（GP認定審査事業）

1. 事業概要

グリーンプリンティング（GP）認定事業のうち工場認定及び製品認定については、平成27年度に350工場を超えるとともに、GPマーク表示部数も3億2千万部を突破した。平成28年度はグリーン基準改定に伴い印刷業界内へのGP制度周知にさらに力を入れるとともに、GP環境大賞の継続実施によりクライアントを巻き込んだ事業へと拡大していく。GP認定事業の一つであるGP資機材認定制度については、前年度新たに認定したVOC警報器をはじめとしてオフセット印刷部門の洗浄剤、湿し水、現像機、セッター(出力機)、デジタル印刷機等の資機材認定を継続すると共に、新たな認定資機材の種類と件数の拡充を図って行く。また、GP認定制度のさらなる広報活動として、印刷発注者、制作者、消費者への知名度アップを中心とした社会全般への周知活動並びにGP認定制度による環境負荷低減効果をアピールする。

2. 事業活動

(1) 認定実績と目標

認定 工場数	年度	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 実績	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 目標
平成28 年度 目標	新規	58	42	72	47	32	26	25	35	23	40
	更新	—	—	44	50	38	98	87	65	120	110
	売上	11,220	8,730	23,840	19,490	15,020	24,010	25,510	17,008	24,665	26,239 千円

*資機材認定登録料を除く

(2) 活動内容

1) GP工場認定対応

- ・GP更新認定工場並びに新規取得希望工場に対する説明会の実施。
- ・GP工場交流会、GPニュースの充実と重要環境法規のセミナー等実施。
- ・GP工場認定審査方法改善、GP工場拡大のための諸策検討
- ・GP工場認定審査員の5名体制維持。

2) 印刷産業界へのGP認定工場周知活動

- ・印刷団体(地域含む)及び印刷企業からのGP認定制度説明要請への対応。
- ・改定基準に基づくGP工場認定申請の手引の配布及び全国説明会の実施。

3) 印刷資機材メーカーへのGP資機材認定制度の周知活動実施

- ・GP資機材認定制度の維持改善、資機材メーカーへの周知。
- ・GP資機材の対象品目新規基準策定及び参加メーカー拡大。

4) 印刷発注者及び社会に対する広報活動

- ・GP認定制度による環境負荷低減効果の数値化と実績の社会へのアピール。
- ・GP認定制度の中長期目標及び実行計画の策定（工場、資機材、製品）。
- ・マスコミ発信並びに直接説明による印刷発注者・団体、社会へのGP制度周知。
- ・官公庁、公益法人、オリンピック等に対する周知及びGPマーク採用の働きかけ。
- ・環境関連展示会、ホームページ、ジッピー活用等によるGP認定制度の社会への周知活動。
- ・GP環境大賞の継続実施（クライアント表彰）、GPマーク普及貢献GP工場の表彰制度創設。
- ・GP認定工場の製造するGP製品実績の把握とGP製品の周知活動を実施。